

令和 5 年 8 月 1 日

報道関係各位

独立行政法人国立科学博物館

ミニ企画展「博物館が支える 日本の生物多様性の保全」 開催のお知らせ

国立科学博物館（館長：篠田謙一）は、2023（令和 5）年 8 月 18 日（金）から 8 月 22 日（火）までの期間、下記のとおり、新たに制作した巡回展「博物館が支える 日本の生物多様性の保全」をミニ企画展として開催いたします。

国立科学博物館では、全国の博物館や関連施設で活用していただくために、巡回展の貸出を行っています。新たに制作した本展は、博物館が標本を通じてどのように日本の生物多様性の保全に貢献しているのかを学ぶことができる内容になっています。令和 5 年 9 月以降の貸出開始に先立ち、まずは当館にて期間限定でミニ企画展として開催します。つきましては、広報に関して特段のご支援・ご協力を賜りたくお願いいたします。

記

【会 場】国立科学博物館（東京・上野公園） 地球館 1 階 オープンスペース

【会 期】2023（令和 5）年 8 月 18 日（金）～8 月 22 日（火） 5 日間

【開館時間】9 時～17 時（入館は 16 時 30 分まで）

【休 館 日】会期中は毎日開館いたします。

【入 場 料】本展は常設展示入館料のみでご覧いただけます。

一般・大学生：630 円（団体 510 円）（税込）、高校生以下および 65 歳以上無料

※団体は 20 名以上

※入館方法の詳細等については、当館ホームページをご覧ください。

<https://www.kahaku.go.jp/>

【主 催】国立科学博物館

【お問合せ】国立科学博物館 科学系博物館イノベーションセンター

展示開発・博物館連携グループ 展示開発担当

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

TEL：03-5814-9808 FAX：03-5814-9899 E-mail：junkaiten@kahaku.go.jp

【展示概要】

日本列島は、世界の中でも生き物の多様性が高い地域の一つであり、他の地域では見ることできない生き物がたくさん暮らしています。

本展では、生物多様性について解説するとともに、博物館による生物多様性保全の方策等について、写真や標本、映像を交えながら紹介します。(解説パネル 20 枚、主な標本 4 点、映像 2 本)

解説パネルの一例



映像展示



筑波山塊の固有種・ツクバハコネサンショウウオの生態

コシガヤホシクサの一生

標本



サクラソウ(左)、コシガヤホシクサ(右)の樹脂包埋標本

ツクバハコネサンショウウオ(オス・メス)の模型



クニマス(メス)の剥製

【展示監修者】



〔総合監修者〕

植物研究部 陸上植物研究グループ

研究主幹 海老原 淳（えびはら あつし）

専門は植物分類学。シダ植物の分類学的・系統学的研究を、分子系統学的手法や倍数性解析等を活用して進めています。また、シダ植物の複雑な種分化様式を解明するため、配偶体の性質に着目した研究を行っています。



植物研究部 多様性解析・保全グループ長

遊川 知久（ゆかわ ともひさ）

専門はラン科植物、熱帯の植物。植物の多様性に関わる3つのテーマ—多様性の実体把握、多様化の原因と過程の解明、多様性の保全—に興味をもって研究しています。また絶滅のおそれのある種や遺伝資源を次世代に伝えるための活動を行っています。



植物研究部長／筑波実験植物園 園長

細矢 剛（ほそや つよし）

専門は菌類学。ピョウタケ類とよばれる、変形菌なみに小型のきのこの分類や進化・生態などを、培養や分子データなどを駆使して研究しています。

また、日本中の博物館からデータの提供を受けて、いろいろな生物の多様性データを世界に発信する活動を展開しています。



動物研究部 脊椎動物研究グループ 研究主幹

中江 雅典（なかえ まさのり）

専門は魚類の系統分類及び形態学（骨学・筋学・神経解剖学）。硬骨魚の系統分類や環境適応を形態にもとづいて研究しています。なぜこのように多様な形の魚類が存在するのか、その要因を明らかにしようとしています。



動物研究部 脊椎動物研究グループ 研究員

吉川 夏彦（よしかわ なつひこ）

サンショウウオ類やカエル類を中心としたアジア産両生類の系統関係や分類、生物地理を研究しています。特に北東アジアに固有のグループであるハコネサンショウウオ属に興味をもっており、全国各地の山を登って調査を行い、分類学的再検討、生態の調査、希少種保全などの研究を進めています。



標本資料センター 副コレクションディレクター

神保 宇嗣（じんぼ うつぎ）

チョウやガの仲間、とくに小型のガの仲間を中心とした分類学的な研究を、系統学や生物地理学などと連携させながら行っています。

また、種名データベースをはじめ、多様性に関する情報の発信や共有に関して、情報基盤の構築から保全での活用まで幅広く取り組んでいます。



国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

巡回展示をご活用ください！

国立科学博物館では当館で制作した展示物を全国の博物館等で活用していただくために、巡回展示物の貸出を行っています。

- 展示物の貸出料は無料です。
※別途経費として輸送料、保険料（輸送中、展示期間中）が必要となります。
※一般財団法人全国科学博物館振興財団からの輸送料助成金制度もございます。
- 貸出期間は1施設あたり1ヵ月を目途に貸出ししています。

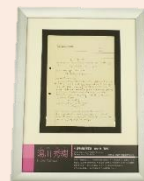


ノーベル賞を受賞した日本の科学者

1949年の湯川秀樹博士のノーベル物理学賞受賞以来、科学分野では多くの日本人研究者がノーベル賞を受賞しています。本巡回展は、研究業績だけではなく、幼少期のエピソード等を交え、ノーベル賞受賞者をより身近に知っていただける内容です。

※会場の面積、形状に合わせ研究者の紹介のみのパネル展開や物理学賞のみ展示など内容の調整も可能です。

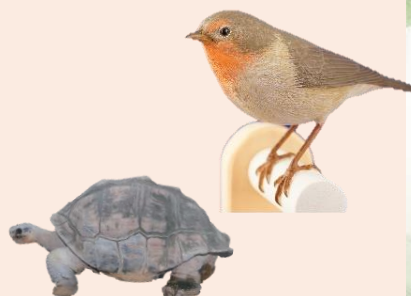
- 〈展示物〉・ロールスクリーンパネル51本
（導入3本、研究者紹介24本、研究紹介24本）
・受賞者関連資料24点
- 〈必要面積〉100～200㎡（目安）
- 〈設営時間〉2人で平均3～4時間



ダーウィンを驚かせた鳥たち

自然科学者ダーウィンが進化論を考え付くヒントになったとされる鳥「ダーウィンフィンチ」について紹介します。アメリカ自然史博物館から借用した標本をもとに、精巧なバードカービングを作成しました。くちばしの形状や体の大きさ等の比較により、ダーウィンフィンチの進化についてお伝えする展示内容です。

- 〈展示物〉
- ・ロールスクリーンパネル6本
 - ・ダーウィンフィンチ雄模型16体＋雌模型13体
 - ・展示ケース1台
 - ・ガラパゴスゾウガメパネル1枚
 - ・動画再生用モニター1台
- 〈必要面積〉約30～50㎡（目安）
- 〈設営時間〉2人で平均2時間



琉球の植物

琉球列島には多くの植物が分布し、日本で最も種の多様性が高い地域といわれています。その反面、残念なことに最も絶滅危惧植物の集中する地域の一つともなっています。本展示では琉球列島に生きる植物、そして植物と人々とのかわりを紹介します。琉球列島に生きる植物を知り、生物資源と生物多様性の重要性を考えていただく展示内容です。

〈展示物〉

- ・ ロールスクリーンパネル 16本
 - ・ 植物写真パネル 53枚
 - ・ 立体地形図 1台
 - ・ 動画再生モニター 1台
 - ・ 植物由来の民具（芭蕉布、クバ笠など）
- 〈必要面積〉 約100～150㎡（目安）
〈設営時間〉 2人で平均2時間



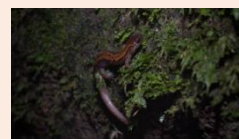
新規
間もなく申込開始

博物館が支える 日本の生物多様性の保全

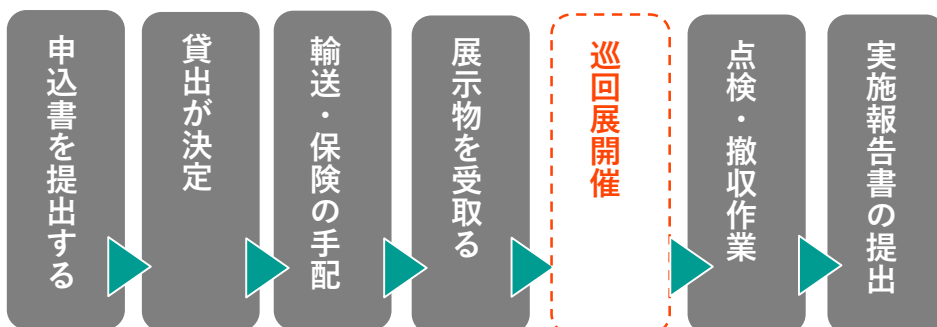
日本列島は、世界の中でも生き物の多様性が高い地域の一つであり、他の地域では見ることできない生き物がたくさん暮らしています。本展では、生物多様性について解説するとともに、博物館による生物多様性保全の方策等について、写真や標本、映像を交えながら紹介します。（解説パネル20枚、主な標本4点、映像2本）

〈展示物〉

- ・ ロールスクリーンパネル 21本、
 - ・ 生物多様性フィギュア 1台
 - ・ 立体地形図 1台
 - ・ 標本展示 4台
 - ・ デジタルサイネージ 2台
- 〈必要面積〉 約100㎡～200㎡（目安）
〈設営時間〉 3人で平均1時間30分



●貸出の流れ



▼詳細はこちらから
ご確認ください！



<https://www.kahaku.go.jp/renkei/mobile/index.html>

貸出のご希望やご質問など
ございましたら
担当までご連絡ください！



■お問い合わせ先■

独立行政法人 国立科学博物館
科学系博物館イノベーションセンター 展示開発担当
〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20
TEL : 03-5814-9808 FAX : 03-5814-9899
E-mail : junkaiten@kahaku.go.jp